

## 「チーム担任制」導入にあたり

令和2年度4月より、本校では「チーム担任制」を導入いたしました。これまでの固定担任制からの大きな変更であるため、生徒や保護者だけでなく、地域に深く理解してもらい、将来的には、この新たな取組が本校のスタンダードとなり、チーム担任制の良さが認められ、これまで以上に生徒も教職員もこの学校で学びたい、働きたいと思える「魅力あふれる学校」にしたいと考えています。

さて、毎年国連の「世界幸福度ランキング」というものが発表されています。2021年度は、日本は56位で2015年度の46位からさらに順位を下げました。1位はフィンランドで、子どもの教育にも力を入れ、何よりも「読書量」に大きな差があるということもわかっているようです。

では、人間が生きているうえで幸せを感じる時とは、どんな時でしょうか？

自分の夢に向かって歩んでいる幸せ  
仲間と楽しく学校生活を送ることができている幸せ  
勉強で分からなかったところが分かるようになった幸せ  
家へ帰るとあたたかく迎えてくれる家族がいる幸せ  
おいしいものをおなかいっぱい食べられる幸せ  
誰かに自分の存在が認められている幸せ  
誰かが自分の努力を見てくれていたと感じる幸せ  
人を愛し愛されるという幸せ  
今、生きていることへの幸せ



人それぞれ、国それぞれ、価値観も違うし、生活環境も文化も違います。だから幸せを感じる「ものさし」も根本的に違うのかもしれない。

では、たくさんの物があふれ、食べるものも、お金さえあれば、すぐに手に入るこの日本において、どんな時にどんな状態ならば幸せを感じるのでしょうか。

文部科学省は、全国の小中学校や高校から報告を受けた子どもたちの自殺の件数を毎年度公表しています。その結果、令和2年度に自殺した児童生徒の数は男女合わせて479人で、前年度から140人増加しています。479人のうち中学生は136人になります。全世代の自殺者数は、ピーク時の6割ほどにまで減っていますが、子どもたちの自殺は昭和63年度に現在の方法で統計を取り始めて以降、過去最多となりました。自殺の要因として、家庭の問題・親などの叱責・進路の悩み・いじめが挙げられますが、多いのは「不明」という回答です。これらは決して対岸の火事ではなく、真剣に受け止めなければならないことだと考えています。

私たち教職員は、この松茂中学校という学びの場において、子どもたちには、生きることのすばらしさや仲間と語り合うことの楽しさ、夢の実現に向かって一步一步成長すること、言い換えると「なりたい自分」に近づく喜びを感じて欲しいと心から願っています。だからこそ、冒頭にも述べた「魅力あふれる松茂中学校」を実現するためには、成長にプラスとなる改革が必要であるとともに、保護者や地域のみなさまの応援や助言が必要なのです。どうかお力を貸してください。

